

平成17年度環境ホルモン及び一般農耕地使用農薬の実態調査結果

環境ホルモンは、現時点では、明らかなヒトへの影響は認められていないものの、不明な点も多いことから、平成12年度から県下全域の主要河川の実態調査を実施している。

平成17年度は、前年度と同じ県内の7河川において調査を実施した。

また、一般農耕地で県内使用実績の多い農薬についても、同じ地点で調査を実施した。

調査結果の概要

1 環境ホルモン

県内の河川7地点において、ビスフェノールA等の17物質について、夏季と冬季の2回の調査を実施した。

その結果、7調査地点のうち4地点で4物質が検出された。

そのうち、ビスフェノールA、4-*t*-オクチルフェノール、2,4-ジクロロフェノキシ酢酸については、全国の環境実態調査結果と同じ程度の濃度であった。

なお、ベノミル（殺菌剤や防カビ剤）は、前年度と同じ1地点で、全国値と比べ夏季・冬季とも高い濃度で検出されたが、上流事業場からの排水も一因であることが前年度の調査で分かっていたため、引き続き事業場に対しては、情報を提供し対応についての協力を要請している。

2 一般農耕地使用農薬

環境ホルモンの調査地点と同じ7地点で、県内の農耕地で主に使用されている4物質について、夏季と冬季の2回の調査を実施した。

調査の結果、全地点において全ての項目が検出されなかった。

(調査地点)

水 系	河 川 名	調 査 地 点
筑後川水系	寒 水 川	中原橋 (みやき町原古賀)
	巨 勢 川	念仏橋 (佐賀市金立町千布)
嘉瀬川水系	八 田 江	中島橋 (佐賀市本庄町末次)
六角川水系	福 所 江	三丁井樋 (小城市芦刈町新村)
松浦川水系	徳 須 恵 川	田中川合流点 (唐津市北波多徳須恵)
塩田川水系	浜 川	浄安寺頭首工 (鹿島市浜町)
	多 良 川	多良橋 (太良町多良)

(環境ホルモン)

◆調査結果概要

調査対象物質	用途等	報告下限値 ($\mu\text{g/L}$)	H17調査結果				
			夏季		冬季		
			検出 地点	検出範囲 ($\mu\text{g/L}$)	検出 地点	検出範囲 ($\mu\text{g/L}$)	
1	ビスフェノールA	樹脂の原料	0.01	1	2.3	2	0.01~0.15
2	ノニルフェノール	界面活性剤の原料	0.1	0		0	
3	4-tert-オクチルフェノール	〃	0.01	0		1	0.03
1	シマジン	除草剤(農薬)	0.05	0		0	
2	アトラジン	〃	0.05	0		0	
3	アラクロール	〃	0.05	0		0	
4	トリフルラリン	〃	0.05	0		0	
5	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸	〃	0.05	2	0.06~0.07	0	
6	ケルセン	殺虫剤(農薬)	0.025	0		0	
7	エンドスルファン α	〃	0.025	0		0	
8	エンドスルファン β	〃	0.025	0		0	
9	マラチオン	〃	0.05	0		0	
10	カルバリル	〃	0.05	0		0	
11	シペルメリン	〃	0.05	0		0	
12	ペルメリン	〃	0.05	0		0	
13	フェンバレレート	〃	0.05	0		0	
14	ベノミル	殺菌剤(農薬)	0.1	2	0.1~1.2	3	0.1~1.6

◆検出項目と検出地点

物質名	($\mu\text{g/L}$)								
	八田江 (中島橋)		福所江 (三丁井樋)		徳須恵川 (田中川合流点)		多良川 (多良橋)		全国値 (H10~H15)
	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	
ビスフェノールA	—	0.01	2.3	0.15	—	—	—	—	ND~19
4-tert-オクチルフェノール	—	—	—	0.03	—	—	—	—	ND~13
2,4-ジクロロフェノキシ酢酸	—	—	0.07	—	—	—	0.06	—	ND~1.56
ベノミル	—	0.1	1.2	1.6	0.1	—	—	0.3	ND~0.76

(一般農耕地使用農薬)

◆調査結果概要

単位:mg/L

農薬名		検出値		備考
		m/n	検出値	
除草剤	ベンチオカーブ (チオベンカルブ)	0/14	ND	水質汚濁に係る環境基準値 0.02
除草剤	メフェナセット	0/14	ND	公共用水域等における農薬の水質評価指針値 0.009
殺菌剤	フサライド	0/14	ND	公共用水域等における農薬の水質評価指針値 0.1
殺虫剤	ブプロフェジン	0/14	ND	公共用水域等における農薬の水質評価指針値 0.01
合計		0/56		

m:検出検体数

n:検査検体数

ND:報告下限値未満(報告下限値:0.001)